

はじめに

ボーイスカウト静岡県連盟

所属団浜松12団ベンチャースカウト隊

氏名上林 明日翔

1. プロジェクト実施に対する動機(ニーズの発意)

自分は、中学の頃から部活でテニスを練習してきた。そして、高校に入ってもテニス进行、8月には新人戦に参加した。しかし、2回戦で負けてしまいとても悔しい思いをした。この冬には、1年生大会があり、その大会こそが今年活躍できる唯一のものだろう。そして、そこで一回でも多くの勝利を手にするために一生懸命練習して技術の向上を目指したいと思ったからである。今回のプロジェクトを通じて、少しでも自分がテニスプレイヤーに近づけたら良いなと思った。

2. 個人の目標(資質の面)

No.	氏名	個人の成長目標
1	上林 明日翔	計画的な練習を行い、自分の技術の向上を図る。

3. 挑戦するアワードおよび技能章

アワードの分野	技能章
スポーツ	

平成 20 年 8 月 23 日

プロジェクト企画書

テーマ「テニスプロジェクト」

活動チーム名：うえばやしい

ボーイスカウト静岡県連盟

所属団浜松 12 団ベンチャースカウト隊

氏名上林 明日翔

1. 目的

2. 活動内容(目標)

活動	内 容	期 間	場 所
1	テニスの練習	9月1日～	学校等
2	浜松市スポーツ祭	10月19日	聖隷高等学校
3	ダブルス新人戦	11月22日	浜松北高等学校
4	1年生大会	1月17日	聖隷高等学校
5	プロジェクト報告書作成会		自宅

3. 期 間 平成 20 年 9 月 1 日～平成 21 年

4. 予算概要

チーム活動費(隊予算分)	0	円
個人負担分(@0 × 1人)		円
		円

合計 0 円

5. 隊長の評価

部活で、みんなと目標を持ち、活動をして下さい。

隊長名 上林 明日翔
平成 20 年 8 月 23 日

活動実施計画書

活動チーム名 うえばやし

1. 活動のテーマ	テニスを頑張る
-----------	---------

2. 活動の目的	テニス技術の向上
----------	----------

3. 活動内容(目標) (活動1)	テニスの練習
----------------------	--------

4. 行動計画(日程)

月 日	内 容	場 所
9月1日～	テニスの練習	学校等
10月19日～ 1月17日	各種大会への参加	
2月上旬	活動実施報告書作成	

5. 人的・物的資源	特になし
------------	------

6. 期 間	平成20年9月1日～平成21年
--------	-----------------

7. 隊長評価

隊長名 西村清夫

平成 21 年 2 月 8 日

活動実施報告書

活動チーム名うえばやし

1. 活動のテーマ	テニスを頑張る
-----------	---------

2. 活動の目的	テニスの上達
----------	--------

3. 活動内容(目標) (活動)	テニスをする
---------------------	--------

4. 行動報告(日程)

月 日	内 容	場 所
10月19日	浜松市スポーツ祭 ベスト16 (1回戦6-1、2回戦7-6、3回戦6-0、4回戦1-6)	聖隷高等学校
11月23日	新人戦 2回戦敗退 (1回戦6-1、2回戦1-6)	浜松北高等学校
1月17日	1年生大会 3回戦敗退 (1回戦7-5、2回戦6-3、3回戦3-6)	聖隷高等学校
2月8日	報告書作成	自宅

5. 期 間	H20.9.1~H21.2.8
--------	-----------------

6. 実施展開に対する反省・評価

今回は、練習に参加することや色々な大会で自分の力を試すことができたので良かったと思う。練習試合や自主練習を通じて色々な人とプレイができたのでよかった。

プロジェクト報告書①

テーマ 「テニスの上達」

活動チーム名:うえばやしい

ボーイスカウト静岡県連盟

所属団 浜松 12 団ベンチャースカウト隊

氏名 上林明日翔

1. プロジェクトの目的

テニスの上達を試みる

2. 目的に対する結論(まとめ)

約 4 か月という長い期間を経て、少しは上達したのかもしれない。活動中に集中することで少しは成長したのだと思う。話は変わるが、「一つのことに集中することによって後のとても大きな成長を期待できる。その集中することはゲーム等でもなんでも良い。」と自分の教師が教えてくれた覚えがある。まさにその通りだと思う。今部活に集中することは後に大きな力となるだろう。

今回のプロジェクトの目的である「テニスの上達」を達成するには、やはり努力することが一番大事だと思った。世界を見渡せば、生まれつきの天賦の才能で何事も成し遂げる人間もいるがほとんどの人間は努力の積み重ねでしか成功を生むことができず、自分もおそらくは後者だろう。< if you dream it, you can do it > これは Walt Disney が残した言葉だがまさしくその通りだと思う。自分のやりたいことを夢見てそれに向かって努力していけば、何事もできるのだ。努力する人間を何事も拒んだりはしない。

2009.1.20 黒人であるオバマ氏が米大統領となったが以前の勝利演説の場でこう語っている。

～中略～我々が連邦を完成させるためには、それぞれに異なる過去がありながらも共通する希望を持っていることを理解する必要があるのです。それぞれに見た目は異なっても来た場所が違っていても、我々皆が、子どもたちや次世代の人々のより良い未来に向かって同じ方向に進みたいと願っていることを理解する必要があるのです。～以下省略～ (2008.11.4)

彼が語るように、希望や未来というものを見据えて行動していくことが大切なのだ。それは、1人で行動する時もみんなで行動する時も同じだ。目標といった類のものをしっかりと持つことが成功への第一歩なのである。今回のプロジェクトを通じて、テニスの上達を試みるだけでなく、夢や目標を持つことの大切さも学ぶことができた。

(プロジェクト報告書②)

3. プロジェクトに対して

①反省

今回掲げた目的や活動内容があまりにも抽象的なものとなってしまう、実際に行動に移したときにすぐに判断できず、何をしていたかを迷ってしまったというあまりにも単純なミスをしてしまったというのが非常に残念だった。今回は前回は前回行ったスキューバダイビングに関するプロジェクトに比べて、全体的にいい加減になってしまったような気がする。前回よりもプロジェクトの質が落ちてしまったというのは、大変残念だった。

②評価

今回、自分が今熱中している部活動という点に関してこのようなプロジェクトを組めたというのは非常に良いことだと思った。高校生活の中で文武両道と謳われるように、勉強と部活動といったものは、とても大きな役割を占める。その部活動に関して、さらなる質を求めるというのは、非常に大切なことだと思う。今回、プロジェクトの企画から運営、まとめまでをなんとか1人でやりきれたというのは良かったと思う。

③感想と課題

前回のプロジェクトは上級生の手助けの上に成り立っていたようなものであったので今回のようにすべて自力で行えたというのは非常に達成感があった。また、定期的に大会等に参加することで自分の実力を測り、プロジェクトへの達成度というものこまめに確認できたのも良かったと思う。今後の課題としては、先述したようにプロジェクトの活動目標や活動内容といったものをもっと具体化していくことがとても大切になると思う。また、次回プロジェクトからは、下級生たちを指導していくということもあり得るのでどのようにプロジェクト進行について教えていくかということも大きな課題となりそうだ。みんなが積極的に活動に取り組めるように教えることができれば良いと思う

(プロジェクト報告書③)

5. 個人の目標(資質の面)に対して

①反省

テニスは相手がいなくてできないスポーツであり、朝練や、自主練に関して一緒に練習をしてくれる人を探すのが大変だった。また、コートやボールといったものは自分1人の力ではどうにもならず、学校や市の施設の力を借りなければなかった。そういった、人とのやりとりやコミュニケーションといったものが上手にとれたかどうかは心残りとなってしまったのが非常に残念だった。また、顧問等から頂いたアドバイスについて素直に従いそれを大いに生かされたかどうか不安な点である。以上の2か所が今回のプロジェクトを終えての反省点だろう。

②評価

少ない練習時間の中、朝練や自主練に参加したというのも良かったと思う。4か月の期間があったといっても、雨天により中止せざるを得ない時や学校等のコートが諸事情により利用できない時なども何回もあり、実質的な練習時間はもっと少なかったように思える。そういったなかでも、質のいい練習をみんなで考えたりして励んできたのはとてもいいことだと思った。何事もそうだがすぐに上達するものはないと思う。だから、これからもくじけずに頑張っていけたらいいなと思う。

③課題

今回のプロジェクトで挙げた反省点のように、顧問等のアドバイスを最大限に生かせるかどうかというのがこれからの課題だと思う。せつかくの助言をただ聞き流して終わるのではなく、それをもとにした練習を考えていくというのも一つの大切なことだと思った。また、普段の練習時間とはとても短いものなので、遅刻をしないとか、ボールアップに多くの時間を割かないなど当たり前のことを徹底していけたらいいなと思った。

◇隊長の評価

テニスの上達という目的に対する結果としては、成績は一歩であるが、その過程での努力を評価します。また一人でのプロジェクトの企画～報告もよい経験になったと思われる。

2009/2/8
隊長名 西村 清矢